

2025年 エステなど美容業の倒産、 25件で過去最多を更新

同業他社等との競争激化

九州・沖縄「美容業」倒産動向調査(2025年)



本件照会先

石倉 達也（調査担当）
帝国データバンク
福岡支店情報部
092-738-7779（直通）
tdb.fukuoka@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/01/06

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、
私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

2025年(1-12月)の美容業の倒産件数は25件となり、2000年以降の集計で過去最多を大幅に更新した。負債総額は9億2,100万円。だが、小規模倒産が目立つ。

帝国データバンク福岡支店は、九州・沖縄地区の「美容業」の倒産発生状況について調査・分析を行った

集計期間:2000年1月1日～2025年12月31日まで

集計対象:負債1,000万円以上・法的整理による倒産

2025年は25件、過去最多を更新も小規模倒産が目立つ

2025年(1-12月)のエステなどの美容業の倒産は25件発生。集計基準を変更した2000年以降の集計で最も多かった2024年の17件を大きく上回り、過去最多を更新した。内訳は、エステなど美容サロンが17件で最も多く、次いで美容室6件、その他2件であった。態様別では、25件すべてが破産、県別では福岡が20件で最多。以下、佐賀2件、宮崎、鹿児島、沖縄で各1件と5県で発生。負債総額は9億2,100万円となり、負債額が5,000万円未満の倒産が23件発生、1件あたり負債額は約3,700万円に留まるなど小規模倒産が目立った。

特に美容サロンは、初期投資を抑えつつ省スペースで開業できることから、参入障壁が比較的低いため、大手チェーンのほか中小の美容関連企業や独立した個人が相次いで参入し、事業所数が増加している。コロナ禍を乗り越えて利用者数は回復傾向にあるものの、新規市場参入事業者の増加による価格競争で、業界内での競争はより激化している。また、集客力があっても人手不足から施術数が増やせずに収益確保がままならないサロンや、新規顧客の獲得を図ろうと宣伝広告に資金を投じたものの集客が計画通りに進まず、採算確保が困難になって事業継続を断念する小規模事業者が目立っている。

今後は、価格競争の激化やコスト上昇への対応が必要となり、顧客を獲得・定着させるビジネスモデルの在り方が問われている。

九州・沖縄地区 美容業倒産件数・負債額推移

